



廃棄ロスも無くなり、 費用対効果は抜群です。

静岡県磐田市
堀内 壮平さん

【プロフィール】

お茶農家の4代目。白ねぎ、いちごを基幹作物として栽培。ねぎは10年ほど前に茶園から転換した畑で栽培し、秋冬ねぎ15a(夏扇タブナーなど)、夏ねぎ40a(初夏一文字、夏扇パワーなど)を作付。

黒腐菌核病の問題を解決

緑茶や温室メロンで有名な静岡県磐田市は白ねぎの栽培も盛んです。年間3000トンの白ねぎが生産され、秋冬ねぎでは国の野菜指定産地にもなっています。肥沃で水はけのいい砂壤土で作られる白ねぎは甘さと柔らかさが特長。堀内さんは18年前に本格的に就農し、現在は白ねぎとイチゴを基幹作物として栽培しています。白ねぎは10年ほど前に茶園から転換した畑で栽培を始めましたが、同じ



取材時の9月は秋冬ねぎの生育期。管内のJA遠州中央ではねぎの育苗、定植、掘り取りを農協で請け負う。

頃、産地に黒腐菌核病が多発。いきなり試練が訪れます。「当時、黒腐菌核病には本当に困りました。その頃は、まだ黒腐菌核病に登録のある薬剤がありませんでしたから、私のところも廃棄ロスが多く出てしまいましたし、周りでもせっかく始めたねぎを諦めて、キャベツとか他の作物にシフトした人もいました」。

大きな被害をもたらした黒腐菌核病ですが、「アフエットフロアブルの適用拡大が転機になった」と続けます。「アフエットはもともと

イチゴで使用していました。灰色かび病とうどんこ病の両方に登録があったから便利でね。その後、ねぎの黒腐菌核病にも登録が拡大したということで、自分からメーカーさんに電話をして、いろいろとアドバイスをもらいました」。早速アフエットの灌注処理を試したところ、抜群の効果を実感したと言います。「アフエットを使い始めて黒腐菌核病の被害はほとんどなくなりました、今では廃棄ロスもほとんどありません。費用対効果は抜群です」と笑顔を見せます。

薬剤の効果を発揮させるために 散布方法にもこだわり

薬剤の散布方法について何うと、「薬の効力を発揮させるために、薬液がきちんと根元までかかるように意識しています」と話し、こだわりの使い方を教えてくださいました。「定植時に1回、気温が下がる生育期に1回の計2回、根元まで薬剤がしっかり浸み込むように、降雨後の土が湿った状態で、アフエット



アフエットフロアブルの灌注散布で
使用している5頭口の散布ノズル。

フロアブル2000倍液をたっぷりと灌注しています。また、5頭口散布ノズルを活用したり、散布液がこぼれないよう株元をV字に仕立てたりと工夫をしています」。

総合的な防除対策で 発病リスクを回避

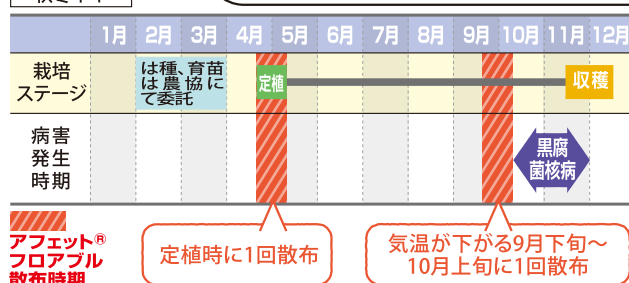
薬剤防除が可能になった黒腐菌核病ですが、その他にも様々な対策を組み合わせています。「3年に一度、土壌分析を行い、菌密度を調べています。リスクを正しく認識しておくことも重要です。その他にも、緑肥としてヘイオーツ、クロタリヤを栽培したり、酸度矯正に転炉スラグを使用したりと、『病気が出にくい』土作りを意識してやっています。アフエットの灌注だけに頼らず色々工夫して総合的な防除方法を実践すれば、黒腐菌核病の発病リスクが高い圃場でもしっかり病気を抑えられますね。とりあえず、やってみることでしょ。自分で作るものだからね」と、笑顔の中に栽培への強い思いを見せていただきました。

堀内さんのアフエット®フロアブルの上手な使い方

夏ネギ



秋冬ネギ



〔産地情報〕

緑茶や温室メロンで有名な静岡県磐田市では、白ねぎの栽培も盛ん。年間3000トンの白ねぎが生産され、秋冬ねぎでは国の野菜指定産地にもなっています。

ネギの適用病害と使用方法

2019年9月現在の登録内容

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ベンチオピラドを含む農薬の総使用回数
ねぎ	黒腐菌核病 白絹病	1000～2000倍	1ℓ/m ²	生育期 但し、 収穫14日前まで	2回以内	株元灌注	4回以内 (株元灌注は2回以内、 散布は2回以内)
	白絹病 さび病 黒斑病 葉枯病 小菌核腐敗病	2000倍	100～300ℓ /10a	収穫前日まで		散布	

その他の登録作物

小粒核果類、もも、ネクタリン、おうとう、なし、りんご、かんきつ、かき、ぶどう、キャベツ、はくさい、ブロッコリー、にら、にら(花茎)、しそ、しそ(花穂)、セルリー、しょうが、にんじん、アスパラガス、きゅうり、メロン、すいか、かぼちゃ、ズッキーニ、にがうり、ししとう、いちご、オクラ、トマト、ミニトマト、ピーマン、なす、たまねぎ、レタス、非結球レタス、パセリ、食用ぎく、豆類(未成熟)、豆類(種実、ただし、らっかせいを除く)、てんさい、花き類・観葉植物

**黒腐菌核病以外の病害の防除にも！
ねぎの主要病害の防除に**



白絹病

発生部位 根、葉鞘



発生時期	夏期(7～9月)
伝染源	土壌、被害残さ
発病環境(適温)	多湿土壌(25～30℃)

【症状】

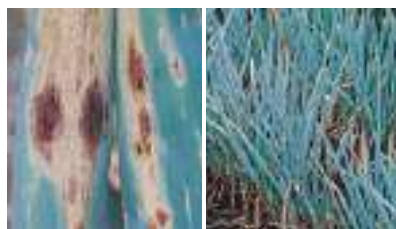
- 地際部と周辺の地表面に白色の菌糸を生じる。
- 被害部は軟化腐敗し、やがて枯死する。
- 白や褐色の菌核を形成する。

【防除方法】

- 土壌消毒を行い、連作を避ける。
- 発病株は菌核が形成される前に抜き取り、圃場外に処分する。
- 発病初期から薬剤による防除を行う。

黒斑病

発生部位 葉、花梗



発生時期	梅雨期～初夏期(6～7月)および秋期(9～10月)
伝染源	被害残さ
発病環境(適温)	多湿(24～27℃前後)

【症状】

- 白色の小斑点を生じ、やがて、淡紫色の中型の楕円形～紡錘形病斑となる。
- 病気が伸展すると、病斑は濃く大型の同心状の病斑となり、その上にすす状のかびを生じる。
- 病斑が拡大すると、やがて枯れあがり、病斑部から折れやすくなる。

【防除方法】

- 圃場の排水を良くし、風通しを良くする。
- 草勢が衰えた株で多発するため、適正な肥培管理を行う。
- 発病株は取り除き、圃場外に処分する。
- 発病初期から定期的に薬剤を散布する。

さび病

発生部位 葉、花梗、花弁



発生時期	春期(4～6月)および秋期(9～11月)
伝染源	植物体上の冬孢子、夏孢子
発病環境(適温)	多湿および水滴(15～25℃)

【症状】

- 葉の表面に橙色、周辺は黄白色の小さな斑点を生じる。
- 激発すると、ネギ全体が褐色となり、被害部は枯死する。
- 晩秋には紫褐色の冬孢子が粉状にできる。

【防除方法】

- 梅雨期および秋雨期の薬剤による防除を徹底する。
- 肥料切れは発生を助長するため、適切な肥培管理を行う。
- 被害残渣は圃場外に処分する。

小菌核腐敗病

発生部位 葉鞘、葉



発生時期	露地の秋冬期(9～3月)、ハウスの冬期(1～3月)
伝染源	被害残さおよび土壌中の菌核
発病環境(適温)	多湿土壌(10～15℃)

【症状】

- 葉鞘の表面に淡黄色の斑点ができ、外葉から腐敗する。時には病斑部を中心に縦に亀裂する。
- 病斑上に黒色で楕円形の菌核が多数できる。

【防除方法】

- 圃場の排水を良くする。
- 多肥栽培を避け、適切な肥培管理を行う。
- 発病株は取り除き、圃場外に処分する。

葉枯病

発生部位 葉、葉鞘、花梗



発生時期	春期(3～5月)および秋期(9～11月)
伝染源	被害残さ
発病環境(適温)	多湿および水滴(15～23℃)

【症状】

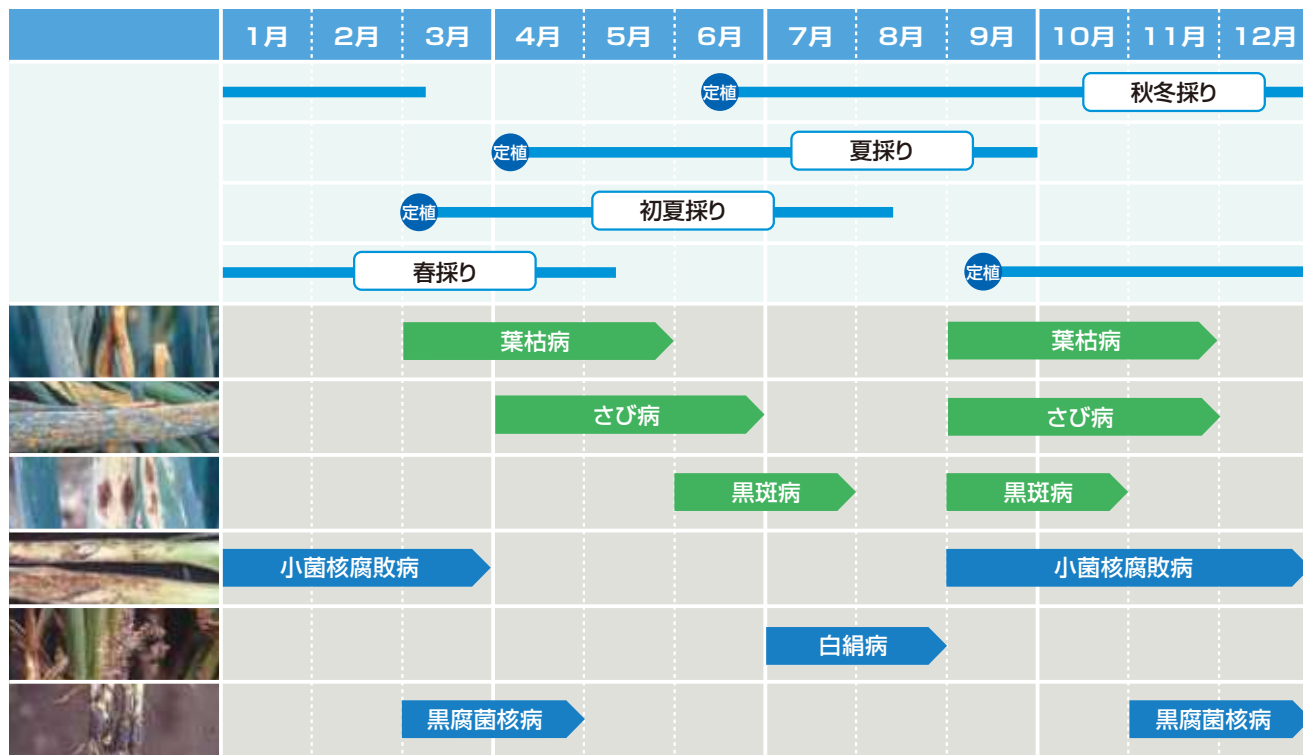
- 葉の中心に蒼白色で紡錘形の病斑を生じ、やがて赤紫色を帯びた暗褐色の病斑となり、すす状のかびを形成する。
- 黒斑病の病斑に酷似しているが、黒斑病のように同心円輪紋を作らない。

【防除方法】

- 密植を避け、風通しを良くする。
- 窒素過多や肥料切れに注意する。
- 発病初期から薬剤による防除を行う。

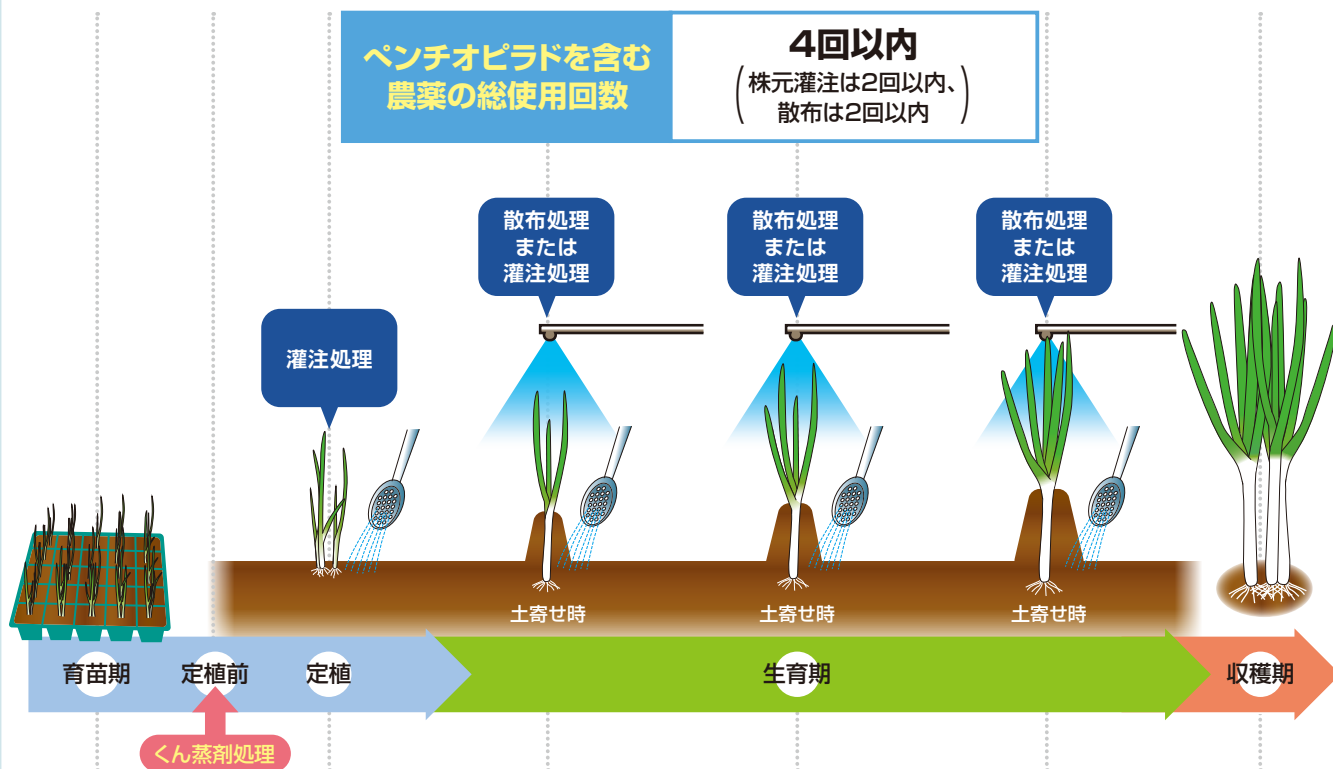
■ねぎの作型と主な病害の発生時期

アフェットフロアブルの適用病害のみ抜粋



主な病害部位 葉 根・葉鞘

■土壌病害（白絹病、黒腐菌核病）防除方法のご提案



定植前の土壌くん蒸と生育期のアフェットフロアブルの体系処理により、高い防除効果が期待できます。